

イクボス宣言をした東郷町の町長や職員、企業経営者ら＝東郷町役場で



東郷町役場 イクボス宣言 令和元年 10月30日

東郷・井俣町長「イクボス」宣言

幹部職員、経営者ら50人が研修

東郷町の井俣憲治町長や幹部職員、町内十三企業・団体の経営者ら約五十人が三十日、部下の家庭生活と仕事の両立に配慮する管理職を目指す「イクボス」宣言をした。イクボスは、NPO法人ファザリング・ジャパン（東京）が提唱する呼称。

小学生の長男を持つ井俣町長は「配偶者、同僚、上司が苦楽を分かち合い、子どもを育てていく仕組みが大切」とあいさつ。宣言に先立って、同役場で開かれたイクボス研修会では、講

師で同法人代表理事の安藤哲也さん（五）もが、人口が減少し家庭や仕事の価値観が変わっていく時代の中で、「皆勤賞は勲章でなく、ただの根性論」と強調し、「命令、服従でなく支援と貢献の関係性が大切。ボス自身の覚悟が問われる」と話した。

研修後に参加者全員は、「効率的な仕事の改善を行う」「育児休業などを取得しやすい職場づくりに努める」など五項目が書かれたイクボス宣言書に署名した。（平木友見子）

賑わい



Ｔシャツ販売店をオープンした鈴木政志さん＝緑区森の里の大高公設市場で

第28話「大高公設市場」

BabyChips



十数年ぶりの市場に往時の賑わいはなかった。「昔は本屋、カメラ屋、服屋、薬局。自転車屋にたこ焼き屋、パン屋もあった」

「か閉店」後を追うように生花店、クリーニング店、お好み焼き店が閉じた。店の数は一気に半減し、人の流れがますます失われていく。

「どうすればいいか。店主らが話し合う中で「秋祭りをやる」との声が出た。パームタウンがなくなっても、市場はまだ営業している。近隣住民にそう訴えかけたかった。

第二十八話終わりに（この連載は、白名正和が担当しました）

販売中 単行本

中日新聞社は掲載された連載を一冊にまとめた単行本「なごや人情交差点」を販売中。二〇一六年一月の連載開始から一七年五月までのシリーズ十五話を収録。千二百九十六円。本紙販売店から宅配もしている。

台風19号の被災状況

尾張旭市職員が報告 福島・相馬市に派遣

尾張旭市から台風19号の被災地支援として福島県相馬市に派遣されていた市土木管理課庶務係の小西浩範さんが三十日、市役所で森和実市長に現地状況などを報告した。

尾張旭市は、東日本大震災の際に相馬市と同県三春町へ職員を派遣した縁があり、今回小西さんは十六、二十九日、同市の災害廃棄物の仮置き場で、ごみを捨



てに来た住民らの案内などにあった。

一日五、六百台の車が来たとい、「ごみの量で浸水被害の大きさがわかった」と小西さん。台風19号で冷

蔵庫などの家財被害にあった住の大雨で再度被災し直した冷蔵来た話なども明日焼けてサン

黄瀬戸多



の橋田ろいろしくて加藤は力作し、来時、最565